

特別企画

★自転車プログラムを実施しているクラブ★

スポーツかわち「ship」 栃木県宇都宮市

国土交通省が令和3(2021)年5月に「第2次自転車活用推進計画」を策定しました。

第2次自転車活用推進計画では目標の一つとして、日常生活における自転車利用も含めた生涯スポーツの普及奨励により、心身の健全な発達や、生きがいのある豊かな生活の実現、国民の健康寿命の延伸等を目指しています。

そこで今回は、自転車種目に取り組むクラブについて紹介します。

【国土交通省HP 自転車活用推進計画】

https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/jitensha_katsuyo/

1

クラブ概要

地元のイベントや事業ではレクリエーションを実施

スポーツかわち「ship」は、栃木県宇都宮市の北東に位置する旧河内町^{*1}において、平成15(2003)年12月に設立しました。栃木県では4番目に設立された総合型クラブで、今年、22年目を迎えました。設立から20年以上が経ち、地域に定着してきていることを感じています。

活動場所に関しては施設の優先利用権等がないため、公共施設は抽選会を経て使用料を払いながら借用しています。地区内の学校の体育館は使用料がかからないので、できるだけ小・中学校を使用させていただいています。また、行政からは補助金の支援をいただいています。

本クラブは、会長1名、副会長2名、事務局員2名(公認アシスタントマネージャー資格保有者 1名は会計担当、もう1名はクラブ全般の庶務を担当)、運営委員11名によって構成されています。毎月第3木曜日の19:00から定例運営委員会を開催し、運営全般について共通理解を図っています。教室、サークル、イベントを3本柱に活動しており、サークルは、スポーツ系13種目(一般会員対象:5種目、小学生以上対象:8種目)、文化系2種目(一般会員対象:1種目、小学生以上対象:1種目)を展開しています。

会員数は、令和6(2024)年7月現在で284名(中学生以下:170名、高校生～59歳まで:63名、60歳以上:51名)です。

河内地区には、『まちづくり協議会』という地域の中心となって活動をしている組織があります。スポーツかわち「ship」も構成団体の一つで、スポーツ部会として地元のイベントや事業でレクリエーションを実施しています。

^{*1} 平成19(2007)年3月31日に宇都宮市と合併した現在の宇都宮市河内地区



毎年12月、陸上サークルを中心に開催している『挑戦！リレーマラソン』400mトラックを活用してフルマラソンの42.195kmの距離を一人200mずつ走りながらバトンで繋いでいく行事です



長く愛されている「パウンドテニスサークル」



設立当時からの活動の一つ、バスケットボールサークル

2 『総合型SCフェスタ』で自転車プログラムを実施

「自転車先進県とちぎ」を推進する栃木県

栃木県総合型クラブ連絡協議会では、誰もが気軽にスポーツやレクリエーションに親しむことのできるイベント『総合型SCフェスタ』を開催しています。今回は、71年ぶりに本県で開催される全国レクリエーション大会に合わせ、大会の主催者である（一社）栃木県レクリエーション協会と本クラブが連携し、同大会のプログラムの一環として『総合型SCフェスタ』による自転車プログラムを実施しました。

自転車プログラムを実施した背景として、以下に示すような栃木県の特徴が挙げられます。

- ① 栃木県が「自転車先進県とちぎ」を標榜していること。
 - ② ジャパンカップやツール・ド・とちぎ等の国際サイクルロードレース大会が開催されたこと^{*2}。
 - ③ プロサイクルロードレースチーム・宇都宮ブリッツェンが活躍していること。
 - ④ 県内に栃木県が整備した4つのサイクルモデルルートがあり、栃木県全域をカバーしていること。
- また、このルートを活用しながら、さまざまな自治体や団体によるサイクルイベント等の事業が行われるようになってきたこと。

その上で、当クラブをはじめとする県内総合型クラブでも新たなコンテンツとして、サイクル事業に期待を寄せているという背景がありました。

こうした背景のもと、総合型クラブが主体的にサイクル事業を展開することができるよう、栃木県スポーツ協会や栃木県サイクリング協会との連携により、試行的に自転車プログラムを実施しました。

^{*2} ツール・ド・とちぎは、平成31（2019）年第3回大会で終了

会場レイアウトを工夫して実施したタンデム自転車体験会

大会当日はタンデム(2人乗り用)自転車 の体験会を行い、参加者の皆さんには特設コースでの走行を楽しんでいただきました。タンデム自転車は、健常者はもちろん、視覚障害をもつ方も楽しめる自転車で、令和5(2023)年からは公道での走行も可能になりました。自転車等の備品は栃木県サイクリング協会より借用することができました。

最も工夫したのは会場レイアウトです。会場は駅近くの広場で、比較的人通りも多い場所なので、どのようなコースで実施するか悩みました。さらに、会場では他にもさまざまな体験プログラムが展開されていて、使用面積にも制限があるなかでしたが、カラーコーンでコースを作成し、1周が70~80mになるような特設コースを作りました。また9月上旬での開催でしたので、熱中症対策にも気を配って実施しました。



タンデム自転車体験会の様子



3 自転車プログラム実施の効果

充実した「ヒト・モノ・カネ」への第1歩

自転車を活用した事業では安全管理が不可欠なため、十分な人員の配置など解決すべき課題があります。今回、栃木県スポーツ協会や栃木県サイクリング協会と連携して実施したように、関係団体と協力しながら「ヒト・モノ・カネ」といった面の充実を図っていく必要があると感じました。

栃木県は自転車活用推進計画が策定されるなど、自転車活用の機運が高まっている県といえます。通勤・通学での活用に加え、県内ではさまざまなサイクルイベントも実施されています。サイクルイベントに、私たちのような総合型クラブが参画するなど、自転車を通した各関係機関・団体との連携が各地域で展開されています。

私たちも今回のタンデム自転車の体験会を通して、地域の方々に楽しみながら体を動かす機会を提供でき、クラブとしてもノウハウや各関係機関・団体等との繋がりを得ることができたと感じています。

4

クラブの今後の展望

組織のマンネリ化を防ぐための時代に合わせたクラブ運営をめざす

特にサークルに参加している一般会員には、メンバーの固定化と高齢化がうかがえます。一方で、河内地区は、車で5～10分程度で市街地に行くことができ通勤に便利なおことから、一戸建てやアパートが多く、新しい住民が増えてきています。クラブの認知度を高めるなどして新規会員の獲得に力を入れ、組織自体がマンネリ化しないように常に新たな気持ちで進んでいきたいと思っています。

宇都宮市はバスケットボール、自転車、サッカーでプロチームを所有しています。自転車においては、毎年10月の第3土・日曜日に『ジャパンカップロードレース』を開催しています。世界に誇るイベントとして定着しており、市長も自転車を通した街づくりを推奨するなど、市全体で自転車熱が高まっているといえます。今回の「栃木県サイクリング協会」との共催事業タンドム自転車の体験会を機会に、今後、本クラブでも自転車活用推進の一端を担えればと思っています。

また、クラブを設立した20年前と現在とでは総合型クラブに求められている内容が変わってきていることも感じています。現在、当クラブと市の教育委員会で河内地区の中学校部活動の地域展開について協議するなどをしています。時代に合わせた地域や地域住民のニーズに対応できるクラブ運営を心がけていきたいと考えています。

スポーツかわち「ship」 事務局長 宮本栄子

クラブプロフィール

設立年	令和15年12月20日
所在地	〒329-1105 栃木県宇都宮市中岡本町3130 (宇都宮市立古里中学校内)
運営	会員数:284名(令和6年7月現在)、予算規模:約300万円(令和6年度)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●役員を含め運営委員は様々な立場の住民で行政からの人はいない ●宇都宮市で一番古い総合型地域スポーツクラブである
連絡先	〒329-1105 住所:栃木県宇都宮市中岡本町3130 TEL:080-5840-5123 FAX:028-673-7147 E-mail:suporuto.kawati.ship@outlook.jp